

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	医療法人 ささうち内科クリニック		
事業所名	グループホーム ぶなの森 2階		
所在地	福島県郡山市八山田6丁目45番地		
自己評価作成日	平成22年12月22日	評価結果市町村受理日	平成24年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成24年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携が図られており、医師や看護師にいつでも相談できる体制がある。入居者様、ご家族様はじめ、職員は安心して業務に従事できている。入所者様の笑顔を大切に、時には家族となり、時には友達になる事で気兼ねなく何でも話して頂けるような関係作りに努めている。また『ぶなの森』の由来にあるように『暖かく包み込む』ケアの実践している。今年度は震災の影響で外出の行事が出来なくなったため、所内での合同行事を毎月開催した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示してあり”その人らしく地域で暮らすことの継続支援”について再確認を図り、目標に向けて実践し取り組んでいる。また、新人職員採用時には法人及びグループホームの理念を伝え理解してもらっている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。回覧板を回したり外出時には挨拶を交わしたり声をかけて下さる方が増えている。今年は地区イベントが全て中止となり地域とのかわりが少なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人としてクリニック・居宅・通所・GHの4事業の連携にて地域の認知症の人に対する理解と支援に取り組んでいる。GHとしては、社会資源としてのボランティアの活動の受け入れ等を通じて認知症の入居者様との交流の場として活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、取り組み状況や予定等を報告し施設の現状をお伝えしている。ヒヤリハット・苦情報告・介護サービス情報公表制度についてもお伝えしている。頂いた意見は周知徹底を図り、全職員が改善の向け取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員事業を受け入れ協力関係を築いている。市からの要請を受け入れ、緊急に入居された方もいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるケアは行っていない。言葉の虐待に一人ひとりが注意を払いながらケアに努めている。目の前の道路の交通量が激しく安全確保のため玄関に施錠をやらざるをえない環境である。しかし入居者様とご家族様にはいつでも外出できることを理解していただいております。対応できる体制である。1F・2Fは見守りのもと自由に行き来ができる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	禁止行為などを理解し全職員が拘束のないケアを提供している。一人一人がスピーチロックによる精神的な拘束に留意し、日々のケアに行っている。入居者様の接し方に悩みがあった時は管理者が相談に応じている。施設内研修で虐待について学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する資料がいつでも閲覧出来るようにしている。現在制度を必要とする対象者はいないも必要時は活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の方針やケアの考え方・取り組み・退去を含めた対応可能な範囲について説明している。また、その都度不明な点に関して対応し納得の得られるまで説明している。入居者様の状態変化により契約解除に至った場合は、ご本人様・ご家族様と話し合い支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情受付箱・受付者を設置し常時受付をしている。入居者様からの言動から不満等を組み取り苦情報告書としてあげ、その報告書をユニットで検討し更に全職員で検討を重ね不満などの解消・改善に随時取り組んでいる。介護サービス相談員の意見を参考に利用者の意見を拾い、サービスの質の向上に取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や疑問や提案があればいつでも相談できる体制が整っており、出された事案は可能な事から改善している。また、個人面談も実施されている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に応じての研修含めた旅行を開催している。運営者は毎週施設を訪れ、管理者を通じて職員の状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修に積極的に参加している。また、研修へのアンケートを実施し全員が希望する研修に参加できるよう考慮されている。定期的に施設内研修も継続して行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入しており、外部研修で他事業所の職員と交流を図る機会があり、情報交換を行っている。協会の親睦会にも積極的に参加し、個々のネットワーク作りができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調やアセスメント時より、ご本人様の思いを傾聴・受容し不安のない対応を心掛けている。また入所後もセンター方式を活用し職員全体がその思いを把握し、常に気づきのアンテナを張ることにより環境の変化による不安を出来るだけ取り除くことが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様のみでなくご家族様の思いに対しても一つ一つ傾聴・受容し、どのようなケアが提供出来るか説明し信頼関係が築けるよう努めている。入所後も担当職員とゆくり話が出来るといった場面を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々により、ご本人様・ご家族様が必要としているサービス支援の沿えられるよう努め、他のサービスが必要となった場合も介護支援専門員により調整している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の得意な分野や出来そうなことを模索し、ケアに取り入れ、教えて頂く場面を設定しながら「支え合う」関係づくりを大切にしている。日々の会話や作業を通し、同じ時間を過ごすことで感性を共にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月書面にて状況報告をし、必要時やご本人からの訴え時は電話連絡し連携を図っている。ご家族様参加の行事・通院への同行・状態変化時など、随時連絡・相談を行いご協力頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行きつけていたスーパーへ個人の嗜好品を買いに行ったり、思い出の場所や自宅周辺へドライブに出掛けたりし懐かしんでいただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況や状態を把握し意図的に場面設定をしながら交流援助を行っている。そのため入居者様同士で助け合っている場面が見受けられている。時には仲たがいもあるが、一人ひとりの意思を尊重しながら関係が保てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、関わりが必要な方やご家族様に対していつでも相談可能な体制である事を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や本人の言動等を汲み取って思いの把握に努めている。普段とは違う言動も見逃さず、記録に残しスタッフ間で情報を共有している。また本人の立場だったらどう思うかを考えながらケアに努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に実態調査をし、ご本人ご家族から生活歴や馴染みの暮らし振り等の話を伺ったり、日々の会話の中から聞き出せるよう努めている。センター方式も活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の状態に合わせて日中の活動を促している。日々の生活の中での言葉・行動・表情・活動などを通して心身状態や些細な変化を把握し記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを実施、本人の言動から思いを汲み取り、また家族やDrの意見も取り入れ職員全体で話し合いチームで介護計画を作成している。状況によってはミニカンファレンスを行なっている。毎月モニタリングを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活の様子や普段との生活との違い・気づきなどが綴られている個人ファイルを活用。スタッフ全員で目を通し、入居者様の状態・変化などの把握に努めている。情報を共有し記録の重要性をスタッフ全員で認識しケアプランに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じられるよう他業種を含めネットワーク作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター・民生員・町内会に参加していただき、GHへの理解と協力が得られるよう取り組んでいる。出来る限り地域行事に参加、地域の中での暮らしを楽しむよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のほとんどが母体HPで受診しており往診体制を取っている。本人の状態に適した医療受診が出来るよう他科受診援助も行い、経過や結果をご家族様、主治医に報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。入居者様一人ひとりの体調の変化や異変が見られた際には速やかにNSに報告、相談し、指示のもと対応している。受診を要する際にはNSが詳しい情報提供を作成し、他科との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った場合、病状だけでなく日々の生活の様子や精神状態を含め、HPへ情報提供している。退院後の方向性についてや入・退院時の生活に支障が出ないよう医療関係者と連携を図っている。職員は状態確認のため時間が許す限り面会に出向いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族様・主治医を交え話し合い、今後の対応について方針の共有を図っている。管理者よりスタッフへその都度報告があり、連絡方法やケアの手順などをチーム全体考え支援している。ターミナルケアのマニュアルが整備されており周知を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災・救急緊急マニュアルを見やすい場所に掲示しており、全スタッフが対応出来るようにしている。緊急時マニュアルを全スタッフに配布している。また個人の急変時マニュアルも作成し全スタッフが対応できるよう努めている。定期的な訓練(応急手当等)は行っていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練(夜間想定も含む)を実施し、避難方法・通報方法・消火器の使い方の訓練も行っている。訓練時の気づき等の検討会も全員で行っている。3月の震災以後対策マニュアルを見直し、防災用品や非常食を整備した。非常時の地域協力体制を強化する必要がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳する気持ちを忘れず声掛けや言葉使いを常に意識し、個人に合わせた言葉がけをしている。時には配慮に欠ける言動がみられ、全体会議やカンファ時に話し合う機会を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の気分や体調に配慮し、複数の選択肢を設け自己決定出来るよう支援している。個々の思いを尊重し日常生活に反映している。自ら言葉や態度で表現出来ない方に対して、表情や行動を観察し希望を汲み取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかなスケジュールはあるも、常にご本人のペースを優先し可能な限り希望に応じた生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向で決めていただいている。必要に応じて衣類の調整や髭剃りの声掛けをしている。介助が必要な方にはご本人に確認しながら選択していただいている。希望で美容室に出かけたり、以前から愛用の化粧品・整髪剤を使用するなどおしゃれを楽しんでいただいている。外出の困難な方には訪問理容をお願いしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	入居者様の嗜好を把握した上で栄養面を考慮し食事の提供も行っている。食材の購入、食事の準備、片づけまで一緒に行い、食への関心を高めている。好みの物を食べたり、気分転換を図ったりと外食の機会も増えている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の把握を徹底している。栄養のバランスを考え、旬の材料を取り入れながら給食委員が献立を考えている。個々の状態に合わせ、好みの飲み物やとろみをつける等の工夫をしている。月1回の体重測定を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの促しを徹底している。ご本人任せにせず、能力や個々の状態に合わせた口腔ケアを支援している。また習慣となり自ら行う入居者様もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の身体状況にあった排泄方法で支援している。排泄パターン・排泄前後の行動を把握しながら、オムツやパットの使用を最小限に留めるよう日々取り組んでいる。尿意・便意が薄れている方への声掛けをし、失敗する事でのダメージを防いでいる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況の把握に努め、NSによる排便コントロールが適切に行われている。予防策として、朝・夕の体操のほか、日中の活動を多く取り入れている。また食事の内容を考え、乳製品にオリゴ糖をプラスしたり、適度な水分補給を促したりし、便秘による不快感の軽減に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じた入浴を実施している。安全な入浴が出来るよう、個々に応じた入浴方法で援助している。皮膚疾患や体調で希望に応じられない場合は、手足浴や清拭などを行い気持ちよく過ごせるよう努めている。本人の希望により入浴日が固定している方もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の心身状態や活動時間や生活習慣に応じて休息を取っていただいたり、安眠が取れるよう日中の活動を多く取り入れたりしている。居室内の温度・湿度・明るさを個人の好みに合わせる。また眠れない入居者様へは飲み物を提供しながら傾聴し、安心感を持って頂けるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルより服薬内容や副作用について全職員が把握している。服薬時本人に手渡す際は、確実に内服するまで確認するようにしている。薬の処方や量の変更・臨時薬が追加された際は申し送りを徹底し、症状変化の確認に努めている。服薬ミスを防ぐために配薬の方法を変え、チェック体制を強化し		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、興味のあることに楽しんで取り組めるよう支援している。また調理や掃除など役割を持って頂くことで張り合いのある生活がおくれているが、負担にならない様に配慮している。入所以前からの飲酒・買い物・趣味など個々の楽しみを継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など気分転換も兼ね日常的に外出援助を行っている。希望により定期的な外出(買い物・外食)も行っている。今年度は震災の影響により地域行事が全て中止になり地域の方との交流が図れなかった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に施設で管理しているがいつでも買い物ができることは伝えている。現金を直接扱う利用者は殆どいないが、所持している方に関しては個人で買い物し自ら支払いを行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を扱える利用者はいないが希望があればいつでも電話できるように支援している。家族との繋がりを維持するため、暑中見舞いや年賀状の作成を支援し、文書で家族と連絡が取れるよう関わっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下・壁は季節や月に応じて壁画や習字を貼り替えている。温度・湿度は日々管理している。行事の写真も多く掲示し、ぶなの森での生活を体感してもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて自由に席を移られたり、ソファにて腰掛けられたり横になったりと、入居者様のその時の気分によって自由に過ごして頂けるよう配慮している。ソファや小テーブルなど入居者様の状態などに合わせ移動している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた家具を持参していただいたり、本人好みのものが居室にはある。また個人の趣味の作品や思い出の品を飾り、各居室担当者がご本人と工夫しながら居心地の良い空間作りに取り組んでいる。また、居室の清掃は毎日行い清潔を保っている。震災時に愛用の物が壊れた方もいた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力の弱い利用者に対して立位の際見やすいように手摺に蛍光テープを貼ったり、居室の混乱のある方に対して大きな表札をつけるなど個々の状態に合わせて環境作りに努めている。高さが調整できるテーブルをもちい自力摂取できるよう努めている		